

ポリクリを終えて

歯学科5年 近 藤 裕次郎

1年次につづき再び歯学ニュースに寄稿する機会をいただき、ありがとうございます。

以前の寄稿では、早期臨床実習の際に衝撃を受けた膨大な知識と高いコミュニケーション能力を備えた6年生の姿と術者立場からの歯科医療について書かせていただきました。それから4年が経過し、ポリクリを終えて私は臨床実習生となりましたが、あの頃憧れた先輩方の姿にはまだ程遠く一層精進しなければならないと感じています。

今年度のポリクリにおいても先生方のご尽力により感染対策をしっかり行った上で相互実習を行うことができ、学生にとって大変有意義なものとなりました。実際の口腔に触れ、ミラーの見え方も頬粘膜の圧排も模型とは全く異なることを実感し、また患者の立場となって初めて注意すべき不快感にも気付くことができました。特に浸潤麻酔、伝達麻酔のような侵襲的な処置は危険が伴う上、誰もが初めての経験となるため、当日は異様なまでの緊張感に包まれていたことは印象的です。ただ、長年の実習経験に裏打ちされた先生方的確な指導のおかげもあり、学年一同何事もなく実習を終えることができました。その他にも



臨床実習引継ぎ最終日 野球部の先輩方との一枚
撮影時マスクを外しました

数々の貴重な経験をさせていただきましたが、全て周りの方々のご協力なしでは成し得なかったと感じています。この場を借りて感謝を伝えたいと思います。

最後になりますが、今後もポリクリやこれまでの習得した知識・技術・態度に磨きをかけ、一步ずつでも胸を張れる歯科医師となれるように励んで参ります。

歯学科5年 中 嶋 優 晶

緑衣を身にまとい廊下を歩く先輩方を見て、「かっこいい！憧れるね！」なんて会話をしていた3年前。それがいつのまにか、自分が緑衣を着る側になっているのですから、時が経つのは早いものです。

実習が始まるまでは、「ポリクリとはなんぞや？」といった気持ちで、5年生になったとはいえ、知識も経験も乏しく、無事乗り越えることはできるのかと不安でいっぱいでした。しかし始めてしまえばそんな心配をしている暇もなく、班の仲間と切磋琢磨しながら、学ぶ日々であったと思います。

ポリクリを終えて、今までの実習と大きく異なると感じたことは、やはり相互実習があることかと思っています。これまでファントムに対して行ってきた処置を、友人とはいえ"人"に対して行うのですから、今まで以上に緊張と責任が伴います。しかしこのような経験ができるのは今だけで、今後は友人ではない、患者さんに行なわなくてはなりません。そこで、この貴重な機会を無駄にしないために、私は班のメンバーと「この時はこうするとよいね」「この処置はここに注意だね」などと意見交換をするように心がけていました。実際に自分達が経験することで初めて知ることも多く、大変良い学びになったと確信していますし、これ

が今の臨床実習にも役立っていると強く感じます。

現在臨床実習真っ只中で、自分の不甲斐なさを痛感する毎日です。未だ発展途中ではありますが、夢を叶えるためにも、何事にも感謝を忘れず、目の前の一瞬に全力を注ぎ、少しでも多くのことを吸収していけるよう邁進していきたいと思えます。



登院式にて、大切な友人との一枚
撮影時マスクを外しました

